

ひがしやまっ子



授業の様子

～自分の考えや思いを表現できる児童の育成を目指して～

11月までは日中の気温が20℃を越えていましたが、師走に入り、急に気温が下がり、冬の訪れを感じます。お昼休みに落ち葉を集めて遊んでいる子ども達の様子を来年はこの校舎では見ることができないのかな…と思いながら眺めています。



さて、2学期も残りわずかになってきました。授業では「なぜだろう、どうなっているのだろう」という疑問が教師の指導のもとで児童が自分で考え、友だちと考え、学級の皆で考え、時には意見を比較し、本やタブレットで調べたりしながら思考を深めていくことに取り組んでいます。「なるほど、そういうことか、わかった！できるようになった！」と課題が解決でき、授業で学習したことや自分の考えを表現することができる…ようになってほしいと思っています。それはこれからの社会が劇的に変化する時代を生きていく子ども達に必要な力（じっくり物事を思考する力、どれが適切なのかを判断する力、自分の考えをあらゆる方法で表現する力、他者と力を合わせてよいものを創造する力）を学校教育で育成していかなければならないからです。

各教室での子ども達の授業の様子は落ち着いて授業に参加しているものの一人一人の思考がどこまで深まっているのかというところはまだ十分ではないところもあり、授業改善に向けて研究を学校全体で進めているところです。1学期は外国語活動・外国語科の授業、2学期は国語科の授業を中心に授業改善に取り組んでいます。



先日の1年2組の国語の「はなしをたのしくつなごう」という単元の授業を紹介します。図工で作製した作品が何に見えるのか「自分の考えを伝え、相手の言葉を繰り返したり質問したりして、話をつないでいくことができる」ことを目標に授業をしました。1年生はまだ自分のことばかり話をして相手のことを考えて



発言することが十分ではありません。友だちの発言をしっかり聞いて、うなずいたり、相手の言葉を繰り返したり、質問したりしてグループ（3人）で話をつないでいきました。相手の話をしっかり受け止めて自分の考えを表現できる…今後につながる授業となりました。

赤い羽根共同募金 ご協力ありがとうございました!

児童会が呼びかけた募金に各家庭でご協力いただきまして本当にありがとうございました。今年度は94名のご協力がありました。12月5日の児童朝会で児童会の代表が四万十市社会福祉協議会の方に直接手渡しました。皆様の善意は四万十市内の一人暮らしの高齢者への支援など福祉関係で活用されます。温かな心が人の心をまた温めてくれるのではないのでしょうか。



認知症サポート講座 ～思いやりの気持ちを大切に～

11月24日に5年生が「認知症サポート養成講座」を通して認知症の方とどのように関わったらよいのかを具体的に学習しました。四万十市高齢者支援課の方から基礎的な知識と共に「驚かせない・急がせない・プライドを傷つけない」ことが大事であることを教えていただきました。これから高齢化が進む社会の中で子ども達もどのように接したらよいのかを考える良い機会となりました。認知症に対する正しい知識をもった上で優しい思いやりの心で人と接することのできる人になってほしいと願っています。

周りに人が認知症になった時とかは不安な気持ちを感じ取り、助けてあげたいです。もし、周りの人がなったら優しく見守ったりしたいです。

(5年男子)

認知症の人に会ったら、その人の前に立ってはっきり、ゆっくり声をかけてあげたいです。あと優しく声をかけて、安心させることのできる人になりたいです。せっかく認知症のことについて教えていただいたので、家族にも話したいです。

(5年女子)

なかよしロングタイム

縦割り班での活動は日々の掃除が中心となっています。上級生が下級生に優しく掃除の仕方を教えたり、声をかけたりしている姿はいつも微笑ましく思います。1年生にとっては大好きな6年生に違いありません。先日はお昼休みに児童会の発案でこの縦割り班でのつながりをより深めるために「お絵描きリレー」を行いました。アンパンマンやカマキリなど児童会が提示したお題の絵を班員で順番に描いていきました。笑い声の絶えないひと時、班員の心もつながったのではないのでしょうか。

